授業科目　公衆栄養学Ⅱ

【担当教員名】	対象学年	3	対象学科	健康
村山伸子	開講時期	前期	必修･選択	必修
	単位数	2	時間数	30

【<概要>又は<一般目標：ＧＩＯ>】
公衆栄養学Ⅰ、Ⅱ、公衆栄養学実習Ⅰ、Ⅱを通じて、地域や職域等の健康・栄養問題とそれを取り巻く自然、社会、経済、文化的要因に関する情報および住民ニーズを収集分析し、保健・医療・福祉・介護システムの中で、あらゆる健康・栄養状態の者に対し適切な栄養関連サービスを提供するプログラムの作成・実施・評価の総合的なマネージメントに必要な理論と方法を修得する。公衆栄養学Ⅱでは、公衆栄養マネジメントの基本的な理論と手法について学ぶ。特に、地域マネジメントの理論、地域アセスメント、評価の手法について、シミュレーションを行いながら、参加型で学ぶ。

【<学習目標>又は<行動目標：ＳＢＯ>】

1．公衆栄養マネジメントの概念と枠組みについて、イメージし、記述できる。
2．地域栄養アセスメントにおいて、質的調査法（住民参加型でニーズを把握する手法）を理解し、使うことができる。
3．地域栄養アセスメントにおいて、量的調査方法を理解し、使うことができる。
4．栄養疫学を用いた、因果関係の把握ができる。
5．公衆栄養全体計画に基づいた、事業計画が立案できる。
6．公衆栄養全体計画の評価と、事業の評価をデザインできる。

回数	授業計画又は学習の主題	SBO 番号	学習方法･学習課題
1	公衆栄養マネジメントの概念、プロセス	1	講義
2	公衆栄養の枠組みモデルと住民参加型の活動展開手法（地域づくり型、PPM、PCMなど）	1	講義
3	地域栄養アセスメントの手法①　（住民ニーズ、QOLの把握：質的方法）	2	講義
4	地域栄養アセスメントの手法②　（地域の健康・栄養状態、食事、食知識、食態度、食行動、食スキル、食環境、生活習慣、社会経済文化的環境、自然環境の把握：量的方法）	3	講義
5	栄養疫学①　栄養疫学の概要、食事摂取量の測定方法（秤量法、24時間思い出し法、食物記録法、食物摂取頻度法、生化学的指標、身体計測値など、妥当性と信頼性）	3,4	講義
6	栄養疫学②　暴露情報としての食事摂取量：①食事・食物・栄養素、②食事の個人内、個人間変動、③日常的平均的な食事摂取量）	3,4	講義
7	栄養疫学③　食事調査結果の分析・評価法（総エネルギー摂取量の栄養素摂取量に及ぼす影響を含む）	3,4	講義
8	栄養疫学④　各要因間の関係の分析方法	3,4	講義
9	栄養疫学⑤　疫学の方法を用いた集団の栄養状態のアセスメントと評価（研究デザインと根拠のレベル）	3,4	講義
10	公衆栄養全体計画と事業計画への展開　（課題、目標の優先順位の決定）	5	講義
11	公衆栄養プログラム（事業）の実施過程のマネジメント　（地域資源のマネジメント、コミュニケーションの管理、行動科学理論の応用）	5	講義
12	評価とモニタリング手法（プロセス評価）	6	講義
13	評価とモニタリング手法（影響、結果評価、行政評価、経済評価）	6	講義
14	自己評価と学習したことの意見交換	1-6	ディスカッション

【使用図書】	<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年･価格･その他>
教科書	公衆栄養学　（出版社未定）			
	栄養疫学	坪野吉孝、久道茂	南江堂	2001年
参考書	食事調査のすべて－栄養疫学－	Willett W.	第一出版	
	食事評価法マニュアル	Thompson FE, Byers T.	医歯薬出版	
	Evidence-based Nutrition EBN栄養調査・栄養指導の実際	佐々木　敏	医歯薬出版	
その他の資料				

【評価方法】
出席２０％
積極的参加２０％
期末試験６０％

【履修上の留意点】
参加型の講義形式であるので、積極的に参加すること。論理的に考えることに慣れること。

健康栄養学科　専門